

第33号

発行所 大阪市史跡 龍溪禪師墓所
 靈 龜 山 九 島 禪 院
 〒550-0022大阪市西区本田3丁目4-18
 ☎06-6583-2725
 発行人 住 職 奥 田 啓 知 (智證)

大阪にオリンピックを!

九条に中華街を!

二十一世紀まであと一年!

龍祖水定二百参拾年法要

小雨も止み、盛大裡に挙行

さる六月十一日(日)午後一時半より、開山龍溪禪師水定参百卅年忌法要が、盛大に挙行されました。

当日は午前十一時より先代弘忠和尚七回忌法要も併せて執行され、大本山萬福寺より監寺・黄檗宗宗務総長 赤松達明禪師を拝請し、黄檗山塔頭萬松院・中島義晃院主をはじめ、萬松派法類・宗内寺院住職十六名が出座されました。親族を含め百二十名もの檀信徒が参詣されました。

数日前には梅雨入り宣言もされておりましたが、天候が心配されていましたが、早朝からの小雨も開式時刻にはあがり、肅々と式次第通り進行了りました。

七回忌法要は、小師(弟子の住職)が清浄衣を身につけ、誦する和尚方、導師を勤めて頂いた塔頭萬松院主をはじめ和尚方に付拜。規矩通りに執行されました。弘忠和尚津送(しんそう)葬儀のこと)の時を思い返しつつ感激に咽びました。小雨もすっかり上がり、午後

からの本番、龍祖水定参百卅年忌にのぞみました。

来賓の方々も着席され、最初に、今回新造された龍溪禪師座像・禪宗始祖達磨大師座像と歴代和尚方の位牌(二十本新造と龍溪禪師と宗祖隠元禪師、後水尾法皇の御尊牌の修理)入魂法要が住職を導師に行われました。禪宗では普通、法要には香語といて境涯を漢詩に込めて陳べる風習があります。

祖 像 開 光

継 承 扶 桑 黄 檗 禪
 靈 龜 山 上 一 燈 傳
 薰 風 草 木 瑞 祥 裡
 祖 像 新 因 清 淨 縁

これで、小柄悲願の戦後復興が大勢の篤志の方々の尊いご浄財のお蔭でかなうことになりました。本堂に有り難いことです。次に龍祖参百卅年忌です。導師には大本山萬福寺より拝請した同寺監寺(かんす)黄檗宗宗務総長赤松達明禪師が勤められ

本堂にむかう山主



龍 祖 忌 香 語

宗 燈 三 百 五 十 年
 龍 祖 法 乳 山 野 滿
 自 在 踏 破 莫 妄 想
 長 恨 斷 滅 水 中 玄

と香語を陳べられ、引き続き小柄が、龍祖に憶いをこめて香語

龍 祖 忌 香 語

一 日 沈 香 薰 大 千
 真 前 種 首 開 法 筵
 春 秋 有 月 本 来 意
 参 百 卅 年 龍 祖 伝

を陳べました。最後に今回の慶讃事業に浄財をご寄付頂いた方々のご先祖回向の後、総長さんの挨拶。当院制作の慶讃ビデオ上映、総代梶山清三氏より会計報告謝辞、住職謝辞と式次第通り定刻に終了し散会しました。以上ご報告致します。

寺史に残る新発見!!

【当院の開山は寛文三年】

高槻市にある慶瑞寺が今春発刊された図録「祥雲山慶瑞禅寺」に、当院に関する次のような記事がありました。

慶瑞寺末寺七箇寺

寛

一 撰州西成郡九条嶋村九嶋庵

一 三拾年以前寛文三癸卯年

一 建立一開基龍溪和尚

一 年貢地四畝式拾歩

慶瑞寺より兼帯

右之通り相違御座無く候仍て後証の爲件の如し

元禄五年壬申月日

富田慶瑞寺住持 永 泰

右之外六ヶ寺同断証文書速く黄檗山へ著げ上る者也

これによると、九島院は慶瑞寺の末寺で、寛文三癸

卯年（一六六三）に龍溪禅師によって建立されたことが判明しました。

当院は寛永十年（一六三三）に蘆嶋嶋開発の香西哲雲と池山新兵衛が、新田の五穀豊穰を祈念して、僧拙道に頼んで創建したが、拙道は師の龍溪和尚を開山として建立したと大阪市史には載っていますが、その建立年が、寛文三癸卯年（一六六三）ということになる。当院にとつては極めて貴重な歴史文書が発見されたといえます。

また、戦災で焼失した歴代和尚方の位牌を新造するに際して、先々代榮忠和尚が大正元年より墨書しておられた当院記録を見ても、その当時より不詳とされていた八代虎嶽和尚と十五代恵眼和尚の卒年が、元文元年十月九日、天保十三年二月二十五日と判明しました。

第七回修養会のご案内

本年も修養会を実施します。これまでは、開山龍溪禅師の御遺蹟をめぐり、先日の参百卅年忌法要で当初の目的をはたせました。今後は、禅宗を続けていきたいと考えています。本年は、兵庫県の外大舟山麓の黄檗宗の方廣寺を拝塔し、大江山萬福寺の作寺奉行の麻田藩（池田市）青木一重公が創設した禅寺ですが、日本書道の国際化に最大の功績をあげた書家上田桑鳩が愛した寺で、氏の作品を多数残しています。昼は反対山麓にある大舟寺で普茶料理を頂き、西国参十三箇所番外花山院を訪ねる予定です。秋の一日、日本の里山風景をのこす三田盆地でゆったりと過ごしましょう。是非、お誘いの上ご参加下さい。

募 集 要 項

- 日 時 11月19日（日） 9時集合
 - 集合場所 九島院より貸し切りバスに乗車
 - 旅 程 九島院-方廣寺-大舟寺（普茶料理）-花山院（西国参十三箇所番外寺）-九島院（4時半頃解散予定）
 - 会 費 1万円（食事・拝観料込み 当日徴収）
 - 募集人員 40名（満員になり次第締め切り）
- ※先着順です。申し込みは、当院（☎06-6583-2725）まで。出発当日の半月前に確認書をご郵送します。

脚「下」、いままで判らなかつたこと自体が不思議といえます。弊師弘忠和尚が存命であれば、どれほどお喜びになられたことか、早速真前に供え、報告しました。

大阪にオリピックを!

九条に中華街を!

二十一世紀まであと二年!

檀信徒の皆さまへ

○慶讃事業収支報告

法要当日、総代梶山清三氏より左記の収支報告がされました。当日の葉に記載されています。

簿財金	一三、三七四・九八八円
五万円以上百七十四名	他百十六名
総計	二百九十名
佛像費	二、五六四・七〇〇円
位牌代	一、七〇九・一二二円
芳名板	九〇〇〇〇円
遺徳碑	五〇〇〇〇円
記念誌	二、二〇五・〇〇〇円
ビデオ	一、〇五〇・〇〇〇円
萬松院	六、一〇〇・〇〇〇円
総計	一四、二一八・八二二円
不足分	八四三・八三四円と法要費用・事務費は寺院会計で支出。

○総代を辞任

病気を理由に、総代の浜田文夫氏が、六月十二日付で辞任されました。氏は昭和五十四年五月三日より、四期（任期五年）と一年余りの間、当院の総代職をお世話願いました。長い間本当に有り難うございました。誌面をかりてお礼とご報告申し上げます。

○記念大作「大樹昇龍」の画

「甕龍の大楠」の命名者で、清田雄司画伯（奈良県在住）にお願いして、法要を記念し「大樹昇龍」の版面を製作していただきました。会館一階ホールに展示しています。



宗務総長 赤松達明禅師香語

ミレニアムの平成十二年は「開山龍溪禅師御水定三百三十年です！」

本日は宗務総長赤松達明禅師をはじめ、ご来賓ならびに、諸大徳の方々、檀信徒の皆様方のご臨席を賜り、龍溪禅師参百卅年忌ならびに祖师像・歴代位牌入魂法要をかくも盛大に行うことができましたことは、ひとえに皆様方の物心両面にわたる無量のご法援の賜物と喜んでいきます。

御礼の言葉

住職 奥田啓知

さて、偲ぶという字は人偏に思うと書きます本日は、今を遡る参百卅年前の寛文十年八月廿三日に大阪を襲った大暴風雨のなか水定死された開山龍溪禅師をお偲びする法要であります。龍溪禅師について、業績を續々詳きました。日本も屈指の禅者で、デオにもありま録という書物との後の禅師の人誠に、人と人不思議なもので、才も中瀬古秀次の出会いがなければ、二人で龍溪禅師きました。なんと素晴らしい禅者であろうか！何としても、禅師を大勢の方々知って頂く！とビデオを作りました。是非お帰りになご家族に見せてあげて下さい。そして、そんな立派な和尚さまゆかりの寺が、自分たちご先祖さまを祀る菩提寺であると誇りをもって頂きたいのです。（中略）先代弘忠も龍溪禅師について、沢山書物を書かれています。きっと本日の法会を喜んで戴けたでしょう。以上、簡単ではございますが、本日のお礼の言葉と致します。本日はどうも有り難うございました。

